



共済レポート

発行：自治労連埼玉県本部
電話：048-866-0661
FAX：048-866-1186

自治労連共済を中心とした知って得するマネー情報

あなたにとって必要な保障は？

保険（共済）に加入することは、保険料（共済掛金）を支払い、何らかの保障を得ることになります。テレビや保険の外交員の方の話では、入院日額1万円、死亡保障500万円などの金額が前面に押し出されていますが、金額ありきではなく、あなたのライフステージ（例えば、就職や結婚・出産、子育て、退職等）と家計に合った保障を組み立てる必要があります。

単純な話ですが、保険料（共済掛金）を高く支払えば高い保障が得られます。しかし、保険事故（＝けがや死亡など保険金が給付される事態）が発生する確率を無視すると無駄が発生します。

例えば、病気で死亡する確率は、若い人と後期高齢者のどちらが高いかといえば、当然後期高齢者です。そうすると、若い年齢のときは大きな死亡保障は不要と言えます。しかし保険の知識のない若者が、外交員に勧められるがまま高額な死亡保障がある保険に加入し、家計を圧迫している事例を聞きます。

（自分が加入している保険が気になったら、保険証券を引っ張り出して、下記のモデルケースと比較してみましょう。）

<モデルケース>

高い保険料を支払って、高い保障があったとしても、無駄があればベストな保険とはいえません。

右図に記載するモデルケースは、できるだけ無駄が生じないように作成したもので、ベストではなくベターなケースと言えます。

ライフステージ	生命共済	医療共済	セット共済なら
就職	小	中	33型
結婚	中	中	18型または31型
出産	最大	中	11型または15型
マイホーム購入	大	中	15型
子どもの独立	中	大	18型または31型
退職	小	中	18型または33型

※詳細は各組合へお尋ね下さい

<ライフステージ別保障のポイント>

若いうちは死亡する確率も病気になる確率も低く、給料も安いことから、ケガ等に対応することがポイントです。結婚すると家族が増えるため、生命共済（死亡保障）を厚くし、子どもが生まれたら子どもが独立するまでの生活を保障するために、生命共済を最大にします。マイホームを購入すると、団体信用生命保険に加入し、万が一死亡しても住宅という財産が残ることから、生命共済を下げます。子どもが独立すると、生命共済を下げると同時に、病気になった場合の収入代わりになるように、医療共済（病気やけがの入院と通院の保障）部分を大きくし、病気・ケガに備えます。退職後は、死亡保障は少なく医療共済部分もほどほどで大丈夫です。

<将来を見据えて比較しよう>

上記でも記載しましたが、保険事故の発生確率をもとに保険料を算出しています。そのため、保険に加入する際の年齢が高いと保険料が高くなります。

一方で、自治労連共済は加入する年齢に関係なく一律の共済掛金です。そのため、若いうちは民間の保険と比較して少し高く、中高年になると格安になっています。（民間の保険ではケガの通院が含まれていないことが多いので、若いうちは民間の保険が安いと言っても、保障の内容を含めて考えると自治労連共済がお得です。）

そのため、若い人だと自治労連共済にそこまで魅力を感じないかもしれません。しかし、民間の保険は、10年や15年ごとに見直しが入り、その都度保険料が上がっていきます。定年までの保険料と共済掛金を比較して、判断することが重要です。（保険会社に確認すれば、更新時に上がる金額も教えてもらえます。）そして、自治労連共済にはサポートU40という制度があり、40歳以下の加入者は掛金が安くなります。



お金に関する知りたいこと募集中！

自治労連共済以外でも大丈夫です。右のQRコードからメールを送ってください。

